

日本ユーラシア協会とは
 旧ソ連邦に住む諸国民との
 相互理解と友好を進める
 （旧）日ソ協会の統一した名
 称です

日本とユーラシア

JAPAN-EURASIA SOCIETY

愛知版 No. 611

（ニュース、投稿は下記へ）
 〒461-0004
 名古屋市東区葵1-22-26
 日本ユーラシア協会愛知県連合会
 電話 052-932-7211

メールアドレス eurasia_aichi@yahoo.co.jp ホームページ <http://nichiyu2015.webcrow.jp>

愛知県で唯一のウズベキスタン料理店

「タバスム」へ行きました お値打ちでおいしい料理がいっぱい



【写真】「タバスム」の入り口

ろにありますが、一度行けばすぐに覚えられます。店内はまだ真新しく、明るく、テーブル席が4つほどある、こじんまりとしたお店です。

オーナーのルスタン・ゾイロフさんが出迎えてくれて、おすそめのレストランはラグマンだというので2名はラグマン、2名はピラフ、私は鶏肉のカレーとノン（ナン）を頼みました。



【写真】ノンとチキンカレー



【写真】参加者のみなさん

駅から歩いて5分くらい。ちよつとわかりにくいところのこと。カレー辛いのも唐辛子辛いのもなく、何か香辛料の辛さだといふことでした。ラグマンは、麺はきしめんのような肉、マトンのような人参、こんにやくなどが角切りになって上に載っていました。ルスタン・ゾイロフさんがウズベキスタンのガイドブック



【写真】ルスタンさんと市川事務局長

ルスタン・ゾイロフさんがウズベキスタンのガイドブック

9月23日（水）、安原理事長と事務局ボランティアの有志で、中村区本陣にあるウズベキスタン料理店「タバスム」へ昼ご飯を食べに行きました。地下鉄東山線「本陣」駅で地下鉄を降りて、どこだろうと工事をしている人に聞いてみると、あつちの方に外国料理の店があると教えてもらったが、そこはトルコ料理の店、そこで聞くと「タバスム」の場所を教えてくれました。

最初にキャベツのミニサラダがみんなに出され、「タバスム」へ昼ご飯を食べに行きました。地下鉄東山線「本陣」駅で地下鉄を降りて、どこだろうと工事をしている人に聞いてみると、あつちの方に外国料理の店があると教えてもらったが、そこはトルコ料理の店、そこで聞くと「タバスム」の場所を教えてくれました。



【写真】ラグマン



【写真】ピラフ

ウズベキスタンの学校では今も週に1時間ロシア語を教えているそうです。でも最近では英語を勉強する人が多く、若い人はロシア語が話せないと言っていました。料理の皿のデザインがいいとほめると、これは綿の花をデザインしたもので、ウズベキスタンによく使われているということでした。以前大学生が綿の収穫に動員されていたという話を聞いたと言っていました。

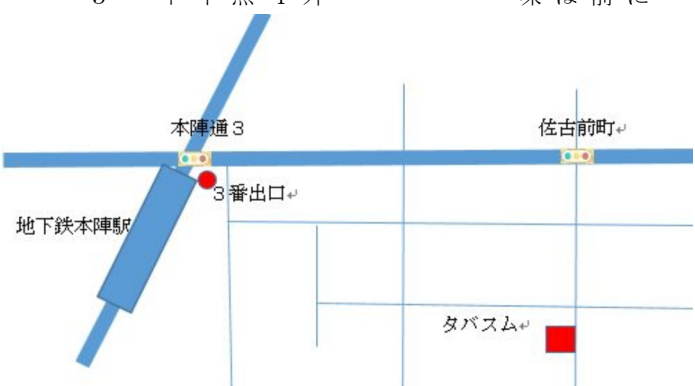
ルスタン・ゾイロフさんがウズベキスタンのガイドブック

ウズベキスタンの学校では今も週に1時間ロシア語を教えているそうです。でも最近では英語を勉強する人が多く、若い人はロシア語が話せないと言っていました。料理の皿のデザインがいいとほめると、これは綿の花をデザインしたもので、ウズベキスタンによく使われているということでした。以前大学生が綿の収穫に動員されていたという話を聞いたと言っていました。

政令指定都市大阪府を廃止して四つの特別区に再編する大阪都構想の是非を問う住民投票が12日に告示され、11月1日に投票票された。11月1日に投票票された。11月1日に投票票された。

大阪都構想住民投票
 大阪市に住む友人・知人に、
 大阪市廃止に反対するよう働きかけてください！

中森 秀樹



（田口龍司）

投稿

2003年7月19日〜24日

アバチャ山登頂の思い出

木村 泰治

*登山行程

- 1日目 名古屋〜新潟〜ウラジオストック〜ペトロパブロフスカムチャッキー
- 2日目 カムチャッキー〜アバチャ山ベースキャンプ〜フラワートレッキング
- 3日目 ベースキャンプ〜アバチャ山登頂（2800m）〜ベースキャンプ
- 4日目 フラワートレッキング（予備日）
- 5日目 ベースキャンプ〜ピストラヤ川下り（川釣り）〜温泉〜カムチャッキー
- 6日目 カムチャッキー〜ウラジオストック〜新潟〜名古屋

子どもの頃からどうして

3回目のロシア訪問

久しぶりに白夜の生活

も行って見たかったカムチャッカ。北海道地図を見ては、その最果て千島列島、ベード、カザフ共和国を訪れ、リング海峡、カムチャッカ半島に思いをよせていた。ここは日本有数の魚場で、日露漁業の発祥の地。歴史上の人物に、司馬遼太郎さんの「菜の花の沖」に登場する高田屋嘉兵衛とゴローニン少佐の実話はあまりにも有名だ。私は函館から漁師を諦め名古屋方面に来て37年。今回登山が縁でとうとうカムチャッカの旅を実現することができた。

ただ今回は登山が目的なので町を訪れることはできなかった。始め、日露にはなお多くの難しい問題が横たわっている。しかし庶民の感覚で岳友仲間による国際交流を深め、溝を埋めていくことができた。



【写真】ベースキャンプよりアバチャ山

ただ今回は登山が目的なので町を訪れることはできなかった。始め、日露にはなお多くの難しい問題が横たわっている。しかし庶民の感覚で岳友仲間による国際交流を深め、溝を埋めていくことができた。

熊の足跡

ベースキャンプに行くには、大きなタイヤの六輪駆動の軍用バスなのだ。途中、



【写真】多軍用車を改造したバス

「熊」と言ったが熊の姿は見え、すぐバスから降りて見た足跡は、とてつもない大きく大人の手のひらに二つ並べたくらいの大きさにみんなビックリ。ホテルの奥深いところでマーマットとともに眠りにつく。

世界自然遺産のカリヤク山とアバチャ山

このベースキャンプ一帯が世界自然遺産に登録されているが、何もない広大な原野だ。カリヤク山とアバチャ山のまだらな雪渓、高山植物と蚊の組み合わせも今では懐かしい。



【写真】カリヤク山を背にガイドさんと

最後の晩餐、カチューシャ

軍用バスのパンクとピリヨ

力温泉郷



【写真】ヒグマの足跡

越え11時30分に石室のある中間地点に着く。ここで昼食をとり登頂に備える。風は相変わらず強い。向かいに仰ぎ見るアバチャ山頂の噴煙を見ながらルート雪渓をトラバースし、ザレのつづら折の道をゆっくりつめる。シベリアおろしは火山灰を巻き上げ容赦なく襲いかかり、何人かの人は火山灰で目をやられた。ザレの登りで、二歩前進しては一步後退の悪戦苦闘の末、14時15分山頂に立つ。山頂は、カール状になっていて活火山特有の硫黄の噴煙と不気味な花崗岩で覆われている。現地

夕食前に各人が下山の準備をしていると、お世話になった現地ガイドが別れの挨拶に来た。みんなも最後直してしまっ。みんなは手を出さず、直つて、私は運動手さんに心を込めて拍手を贈った。パンと感覚が違いすぎて、入ったがすぐ出てしまった。

世界自然遺産のカリヤク山とアバチャ山

このベースキャンプ一帯が世界自然遺産に登録されているが、何もない広大な原野だ。カリヤク山とアバチャ山のまだらな雪渓、高山植物と蚊の組み合わせも今では懐かしい。

最後の晩餐、カチューシャ

軍用バスのパンクとピリヨ

力温泉郷

ホテルの温泉とパラトン

ホテルの温泉は荒壁の温泉プールだったが、川下りの帰りに立ち寄ったパラトンの温泉郷。マルキ温泉は泥沼の温泉だ。キャンプ場には温泉が湧き出て結構人気があるようで、みんなは水着を着て温泉入浴を楽しんでいたが、私は日本の温泉と感覚が違いすぎて、入ったがすぐ出てしまった。

コロナ対応カンパ (10月14日現在)

協力者数 66人

協力金額 903,450円

たくさんの方々からカンパを寄せいただき、ありがとうございました。